

宮城学院女子大学

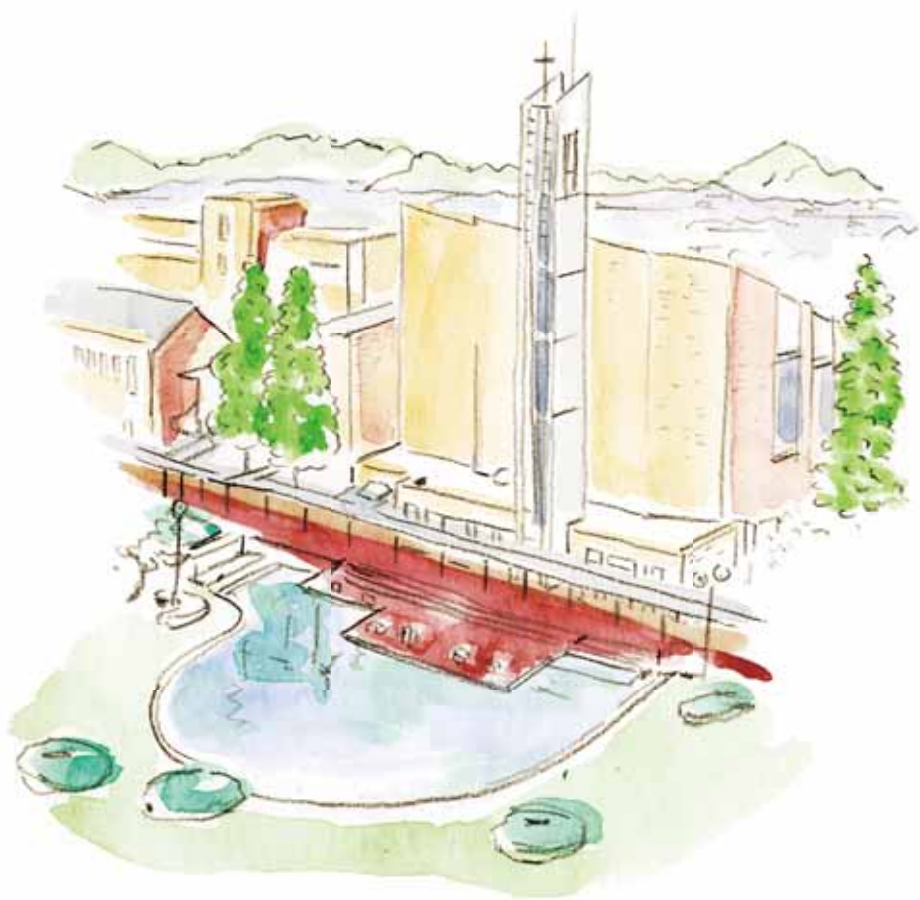
Partir

[パルティール]

VOL. 13

2012.3

あなたのこれからに贈りたい
Live Letter from MG



- 01 誌上ゼミ
古文書で学ぶ江戸庶民の暮らし
〜原文の「人別帳」から見えるもの〜
- 05 学問へのいざない
恋と政治の「物語」を学ぶ
「言語」の教育法を学ぶ
- 07 特集
憧れを叶え、いよいよ教壇へ
教員採用試験合格者座談会
- 09 ACTION
第九に祈りをこめて
- 11 My way Mg way
- 13 サークル紹介
- 14 CAMPUS NEWS

「Partir (パルティール)」はフランス語で「出発する」
新しい時代に飛び立とうとする女性たちを支え、励ますために、
宮城学院女子大学から発信するコミュニケーション情報誌です。

古文書で学ぶ江戸庶民の暮らし

～原文の「人別帳」から見えるもの～

教科書で学べない人々の生活文化に親しむ

古文書は「覚える」より「慣れる」
声に出すことで実感

菊池こちらのゼミでは江戸時代に記された「人別帳」を題材として、東北の農村の人々が実際にどんな暮らしをしていたのかを学んでいます。人別帳とは、一家族ごとに戸主や家族の氏名、年齢などの情報が記された公文書で、現代でいう戸籍台帳のようなものです。当時は役所が無かったため、村ごとに肝入（庄屋）が毎年作成していました。

前期では、まず原文を読むスキルを磨きました。グループに分かれて課題を読み合わせ、私が解説を加えながら声に出して読む作業です。古文書といっても日本語ですら、身構える必要はありません。繰り返し読んで文体を身体で覚えること、これが一番早く習得する方法ですから。
岩城初めは似たような書き方の漢字が多く、辞書を引くのも大変でした。声に出して読むうちに大分慣れて、わからない文字があっても、前後の文字から推測できるようになりました。



蛸崎春香さん



辺見美穂さん

人間文化学科

菊池勇夫 教授

「近世古文書演習」の皆さん

高橋麻耶さん、岩城美未子さん、蓬田真結さん、伊藤美咲さん、蜂谷朋子さん、蛸崎春香さん、辺見美穂さん、安田奈那美さん、高橋祐美さん



宮城の農村の状況が克明に記された人別帳をテキストに授業が進みます。

蓬田 私はひらがなの多彩さに驚きました。「あ」という文字一つをとってもさまざまなきき方があり、日本語はとても興味深いと感じました。

菊池 江戸時代は五十音の正字が定められておらず、古文書に出てくるひらがなは「変体仮名」、つまり和歌と同じです。漢字をくずして書かれたものなので、とにかくさまざまな書体があります。また、「御」や「候」のように使用頻度の高い何通りもの書き方が出てきますね。

私自身も経験したプロセスなので、みなさんの苦労はよく分かります。しかし、読めない文字があっても、文体に慣れて読解力を養っておけば、全体の文意から判別できるようにするのがいいです。



菊池勇夫 教授



教科書上の知識とは異なる
江戸当時のリアルな暮らしに触れる

高橋(麻) 人別帳を読んでもみると、高校の授業で勉強した江戸時代の暮らしと実態はずいぶん違うことに気づきました。例えば、子どもの数は平均でも3〜4人と少なかったり、夫婦間では離婚が多かったりと、意外でした。

辺見 私は後期から加入したので最初はついでいくのが精一杯でしたが、時代劇などのイメージとは違う点が面白いと思いました。農民でも結構土地を持っていたり、家族の人数が少なかったり、いろいろな発見があります。



蓬田真結さん



伊藤美咲さん



岩城芙未子さん





安田奈那美さん



高橋祐美さん

菊池 人別帳は当時の人々の家族構成だけでなく、結婚年齢や夫婦関係、寿命、さらに所有する土地の多少で階層も知ることができま。女性は10代後半、男性は20代前半の結婚が主流で、今より独身者は少ないのですが、実は離婚や再

婚がとても多く、そうしたことを嫌わな社会だったようです。また、一般に考えられるほど子どもが7人、8人というような大家族は少なく、少子化傾向にあったことも分かります。

また田や畑などの土地については、徳川幕府が「永代売買禁止令」を出して売り渡しを禁止していました。しかし古文書の記録を見ると、宮城の農村において年貢の上納ができない場合に売買されていたケースも少なくないのです。

このように、歴史は決して教科書通りではなく、地域性を反映しながら独自の生活文化が育まれていたことを実感できますね。

伊藤 私はある家族に着目し、7〜8年間追いかけて調べてみました。家族構成などの変化を細かく見ていくと、その家族が当時どんな問題を抱えていたのか、一人ひとりがどんな人生を歩んだのかな

ど、さまざまな想像力をかき立てられますね。

古文書の意義を見つめながら、自分らしい楽しみを発見

蜂谷 このゼミに入ってから博物館へ行く機会があり、展示されていた古文書の文字や文の意味を、一緒に行った友人に説明しました。人が知らないことを学び、その成果を何気ない場面で生かせたことは大きな自信になりました。

学習意欲は向上し、人に歴史の楽しさを伝える喜びも知ることができ、とてもプラスになったと思います。

安田 私は一つの文字の解説が文章全体の理解につながり、その時の達成感が忘れられません。「もっと読んでみたい」と積極的に取り組むようになりました。とても地道な作業ですが、そこに魅力を感じて



いる自分の新しい面を発見することができました。

菊池 古文書に触れるということは、とても貴重な体験です。私たちが歴史を勉強する際に一番最初に手にする教科書やガイド本は、通史や概説と言われるあく



高橋麻耶さん



蜂谷朋子さん

までも入口の部分です。

これらは研究者たちが古文書を読み取って明らかにした成果を元に、端的なわかりやすい言葉で一般向けに書かれたもの。歴史の勉強の根本には、人々の暮らしぶりや世情を生き生きと伝える古文書のような史料があることを、私たちは常に意識することが大切です。

人間文化学科は、学芸員の資格取得を目指す学生が多く在籍しています。古文書解読はその際の勉強にも大いに役に立つはず。本物の古文書を自ら読む作業を通して、より鮮明に学ぶことが出来ますから。

**本物に触れて感性を磨き
歴史を広く、深く学ぶ**

蛸崎 みんなで解読作業をした前期も、実物の古文書を読むのも、とても楽しい



です。昔の人が遺した文書を現代の自分が読む、ということに何ともいえない嬉しさを感じます。

菊池 こうした古文書の殆どは、特別なものではなく、実はとてもありふれたものなのです。私たちが今書いているノートさえ、百年、二百年後には立派な古文書になるのですから。

昔の人がコツコツと書き記していたものが、時代を超えて偶然私たちの手元に入り、それが当時の暮らしを具体的に伝える歴史の証言となっている。…そう思うと、現在自分たちが書き残しているものにも自然と関心が持てるようになるのではないのでしょうか。

高橋(祐) 私はもともと歴史や幕末に興



味があって、このゼミに参加を決めました。人別帳などの古文書で自分の好きな歴史上の人物を調べていると、生まれや身分、家族内での位置付けはもちろん、本人の性格まで読み取れるように思います。時代を超えて歴史上の人物を身近に感じることができ、やりがいを感じます。

菊池 そのように個人の感性を豊かにするという意味でも、本物に触れるという経験はとても大切ですね。

歴史はみなさんのような学生時代に限らず、50歳、70歳と年齢を重ねても続けていける息の長い学問です。

これからも先人たちが遺した古文書からさまざまな暮らしや文化をひもとき、知識を豊かにすることで、歴史の奥深さを学んでいきましょう。





恋と政治の「物語」を学ぶ。

日本文学科 星山健 教授

平安時代のサブカルチャー 「源氏物語」を研究

日本の中古文学（平安時代の文学）を中心に研究しています。とくに源氏物語を中心とした王朝物語です。

平安時代、物語というものは、サブカルチャーだったんですね。ちょうど漫画のような位置づけ、という漫画に失礼かも知れませんが…。

当時の物語は書いた本人の署名ができませんでした。源氏物語の作者も紫式部日記が存在したからこそわかったぐらいです。

筆で書き写していくので、読者が勝手に改編・改作していくことが頻繁に行われました。ある意味、誰もが自分なりの物語を持つことができた幸せな時代だったとも言えます。

源氏物語の魅力はなんとと言っても恋

と政治の物語がうまく融合していること。時の政治の第一人者であった藤原道長の娘の教育係だったことが類い希なるスケールの大きな物語を生んだ一因かもしれません。

世界に誇るスケールの物語 様々な研究対象が引き出せる

全54帖、約80年に及ぶ時間。このスケールによって源氏物語からはさまざまな研究対象を引き出すことができます。



私自身は王朝物語史に興味を持っていて、例えば物語の中で創られた架空の位が以後の物語にどう影響を与えていくかというような、物語が新たな物語を創るといふ方を研究しています。

学生たちは光源氏を取り巻く女性たちに興味を持つことが多いようです。瀬戸内寂聴さんも、取り巻く女性たちの苦悩を描くことが源氏物語の目的だったとおっしゃっていますし、女性に目を向けることは間違っていないと思います。

その他、背後にある文化や装束に興味を持つたり様々。800首近い和歌に関心を抱き、アプローチしていく学生もいます。

物語にはこれが正しいという読み方はありません。無尽蔵な研究対象となる源氏物語にたくさんの人にチャレンジしてもらいたいですね。

Profile

星山健 教授 静岡県出身。東北大学大学院修士課程修了。博士（文学）。『王朝物語史論』により第五回全国大学国語国文学会賞を受賞。2000年より本学勤務。
○信条「良い加減」（「いい加減」じゃありません（笑）。何事もほどほどに。）

私のおすすめ本

知識ゼロからの源氏物語

鈴木日出男著

「あさきゆめみ」の少女漫画を挿絵に使って源氏物語の世界をわかりやすく解説した入門書です。源氏物語は1000年も前の物語です所以我々の生活から遠い存在。絵などで文化的背景が書かれていると分かりやすいですね。



これが学びのツボ！

日本文学を勉強には「多読」と「精読」の二本立てが必要です。現代語訳や啓蒙書で多くの作品に触れ、古典の世界に親しむ。気に入った作品はじっくり原文を読み解いていくという作業をしてほしいですね。



「言語」の教育法を学ぶ。

国際文化学科 ブレンダ・ハヤシ 教授

言語学的視点で 英語の習得を研究

最初の研究テーマは「外国語の習得と維持」ということでした。終戦を迎えるまでの間に、さまざまな形で日本化教育を受けたマイクロネシア諸島の人々を調査しました。

どのような形で言語が習得され、どのような形で維持されたか。現地の人々の綿密な調査によって言語習得と維持の重要なポイントが見えて来ました。例えば、話し言葉も忘れていても本を見せると読むことができるというケースは、リーディングというものが習得と維持に大切なラクターになっていることも示しています。

その後は、言語学的視点で英語教育にたずさわっています。ひとつ例に挙げると、日本語と英語の「指示詞」の違い

の研究です。日本語の指示詞は「これ・それ・あれ」の3分類であることに對して英語では「this・thatおよびit」の3分類。英語がうまい人が多いこの「指示詞」をうまく使えない人が多いようです。両国における空間や距離の把握の違いや指示詞の機能の把握の違いが根底にあると考えられます。

総合的な英語教育の 必要性を実感

本当の意味で英語の能力を付けるためには、若い内からリーディング・ライティング・スピーチ・リスニングのバランスのいい教育をする必要があります。今、文部科学省選定教科書（高校）の制作にたずさわっているのですが、この「4技能の総合的な育成」の必要性を感じています。教科書を通して、バランスよく4つの技能を取り込めるような様々な工夫を



行っています。

昔は話す・聞く能力が低いと言われていましたが、現在では長い文章を読む力や内容的にまとまりのある文章を書く力が十分身に付いていないなどと指摘されています。

若者の中で文字を読まない習慣が増えてきているようです。日常的に読むことによつて言語能力もアップされると思います。新聞や本を読む習慣を付けていくことが大切と感じています。

Profile

ブレンダ・ハヤシ教授 アメリカ合衆国出身の日系三世。カルフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) 日本文学(BA)、TESL(MA)。マコーリー大学応用言語学部博士課程単位取得。1987年より本学勤務。
○信条「Good communicators are good listeners.」

私のおすすめ本

アスリートたちの英語トレーニング術 岡田圭子・野村隆宏著

国際的な活躍をしているトップアスリートたちが、どうやって生きた英語を身につけたかが興味深く書かれています。

トップアスリートの外国語トレーニング術から自分へのヒントを引き出すというのも面白いと思います。



これが学びのツボ!

英語を学ぶポイントは英語に関係した好きなものを探さないということ。例えば、大好きな映画。スタンドバイミーを毎日見ていたら英語が上達したという人もいます。あと、積極的に英語に親しむ機会を作ることが大切です。

憧れを叶え、いよいよ教壇へ

教員採用試験合格者座談会

2011年12月9日



全学科にて教員免許状の取得が可能な本学では、教職センターによる最新情報の提供や受験指導、専任教員による勉強会をはじめ、きめ細かなサポート体制で意欲のある学生を支援。毎年多くの教職採用試験合格者が誕生しています。今回は、教職センターの柏葉先生を進行役として、いよいよ4月から教育の現場に立つ5人の皆さんに、教職試験や教育実習の体験談、今後の目標などを語っていただきました。

憧れの教員生活を前に

柏葉／教員採用試験に合格された皆さん、おめでとうございませう。これまでの努力を改めて振り返りながら、四月からの教員生活への期待や教員を目指す後輩へのメッセージなど、自由にお話いただければと思います。



教職センター
柏葉浩明先生

佐藤（小学校 いよいよスタートだ、という気持ちと同時に、一緒に頑張ってきた仲間やお世話になった先生方と離れてしまうため、不安もあります。

柿沼（養護）子どもたちどんな保健教育ができるか楽しみです。養護教諭は学校に二人きりなので、自分で何でもこなせるよう頑張りたいと思っています。

鈴木（中学国語）私は県外に出るため、生活基盤づくりからのスタートになります。知ら

ない土地や学校への期待もありますが不安も感じています。

蘇武（幼稚園）子どもに夢を持ってもらうには、教師である自分も夢を持つことが大切だと思います。試験という目標をクリアした今、教育に対する大きな夢をもつてがんばりたいと思います。

橋本（栄養）栄養教諭は新しい職種なので、他の先生方の要望やアドバイスを生かしながら、自分なりの道を切り開いていきたいです。



食品栄養学科
橋本敦子さん

教員を目指さしたきっかけ

鈴木（中学国語）中学時代に出会った先生が、どんな相談にも親身になってくださって、自分も生徒に寄り添える先生になりたいと思いました。国語の教員免許を取得できる大

学は県内に数少なく、将来を見据えて宮城学院に進学しました。

佐藤（小学校）家族に教員が多く、幼い頃から意識していました。教育実習で毎日違う子どもの表情に触れ、ここで生働いたら幸せだと感じました。

橋本（栄養）私はもともと学校給食が大好きだったので、大学で栄養を学ぶうちに自分で作りたいと思うようになりました。その後栄養教諭という職種があることを知り、新卒採用を目指さすことを決めました。

教育実習で学んだこと

柿沼（養護）専門分野の知識を現場でうまく応用できなかったことが今後の課題です。また、養護教諭は生徒全員を見なければ



食品栄養学科
柿沼愛実さん

ばならないため、子どもたちとのコミュニケーションや先生方との連携を日頃から大切にしていきたいです。

蘇武(幼稚園) 子ども一人一人と向き合えば向き合うほど、信頼を得ることを実感しました。子どもたちを引きつけるためには、専門知識の豊富さだけでなく、人間的な魅力も磨く必要があると思います。

佐藤(小学校) 教員は建前ではない、自分が素直になれば子どもたちも真つすぐに向き合ってくれると思います。また、教員は仕事量が多いので、日常生活から効率的な時間の組み立てを心がけています。

試験勉強で大切なこと

橋本(栄養) 新しい分野ということで参考書



日本文学科
鈴木まり子さん

がなく、出題傾向やデータも少ないため勉強は大変でした。頑張れたのは、同じ栄養教諭を目指す仲間と、応援してくれる家族や先生方の支えがあったからだと思います。

鈴木(中学国語) 私にとっては教職センターの勉強会が一番の刺激になりました。震災後は思うように勉強できない日が続きましたが、勉強会に参加することでモチベーションを上げていき、合格することができました。

蘇武(幼稚園) 私の場合は記述試験がない代わり、現場での感覚を磨く必要がありますし



児童教育学科
蘇武裕子さん

た。ゼミの先生から週1回の幼稚園ボランティアを紹介していただき、子どもと触れ合う機会を持つことが試験突破に結びついたと思います。感謝の気持ち一杯です。



児童教育学科
佐藤真美さん

こんな教員になりたい

蘇武(幼稚園) 子どもたちにたくさんの経験をさせてあげるとともに、やりたい気持ちを応援できる教師になりたいです。

柿沼(養護) 保健教育も、子どもと向き合うのも、どんなことにもひたむきに取り組み教員を目指します。

鈴木(中学国語) 生徒と信頼関係を築き、悩み事があつたら気軽に相談に来てもらえる教員になりたいと思います。

橋本(栄養) 熱意を持つ学校全体の生徒を把握し、良い授業やおいしい給食に生かしていきたいです。

佐藤(小学校) 「子どもが可愛い」だけでなく、本気で叱ったり、「縮に笑ったり、子どもを心から愛せる教員が目標です。

後輩のみなさんへ

鈴木(中学国語) 自分になりたい教員像を見据えながら勉強することが大切です。私は自信を失ったり、気持ちが揺らいだ時、こんな教員になりたいという理想像を思い浮かべ自分を奮い立たせました。

柿沼(養護) 食品栄養学科は栄養士をはじめさまざまな道が選べるので、まずは自分が何をしたいかをよく考えてください。教員になりたいという気持ちさえあれば、仲間と一緒に頑張れると思います。

佐藤(小学校) 仲間との強い絆や先生方との関わりの深さは、少人数の宮城学院ならではだと思います。その強みを生かしてベストを尽くしてください。

柏葉 ありがとうございます。皆さんのこれまでの努力に敬意を表します。どうか、自信をもって教壇に立ってください。皆さんの活躍を楽しみにしています。教職センターはこれからも、皆さんのような熱意あふれる学生のニーズに応え、一人ひとりを力強くバックアップしていきたいと思っています。

募集告知のポスターに 心躍って



合唱団の大半を一般公募により組織する「サントリー1万人の第九」ですが、今年は宮城、岩手、福島から選抜された200名による「東北特別合唱団」も参加することになり、本学でも有志を募りました。参加を決意した人間文化学科の菅野智子さんは「東北から何かを発信したいと参加しました。本番ではしっかりと歌えるように頑張ります」、4名で参加した食品栄養学科の菊池楓さん、北川時空さん、相坂南さん、日本文化学科の阿部真由子さんは「第九を歌う機会なんてそんなにないで、ぜひやってみたい。声が囁けてもいいのでおもしろい歌いたい」と意気込みを語ってくれました。

授業の合間を縫い練習を重ねて、10月には本番で宮城会場の指揮をする矢澤定明さんによるレッスンも行われました。

Action

第九に祈りをこめて

毎年12月大阪城ホールで行われる「サントリー1万人の第九」。「題名のない音楽会」で有名な世界的なマエストロ・佐渡裕さんが総監督・指揮されるという年末恒例の一大イベントです。今年は東日本大震災を受け「サントリー1万人の第九 with 東北」と題して本学大学講堂と大阪城ホールを中継で結び、合同で第九を歌うことになりました。本学からは8学科約60名の学生有志が合唱団に参加しました。



指揮者の佐渡さん、 東北特別合唱団が一堂に

11月23日、指揮者の佐渡裕さんとMG高校卒業生で合唱団にも参加される森公美子さんが来校され記者会見が行われました。

佐渡さんは「音楽に何ができるか、無力感を感じながらも模索してきました。皆さんに勇気を送り、世界にメッセージを送ることが私の使命です」と熱い想いを語られ、森さんは「母校での合唱に参加できてうれしいです。東北からありがとうのメッセージを送りたい」と涙のインタビューとなりました。

記者会見後には、宮城、岩手、福島の東北特別合唱団の合同レッスン。「みなさん、それぞれが主役です。1万人の1にならないでください。第九は喜びの歌。すべての人は兄弟だという熱い想いを込めてください」。当日は肩を組んでの練習など参加者の声も笑顔も輝き出す魔法のようなレッスンでした。

練習に参加された音楽科声楽専攻の清水晶子さんは「佐渡さんのファンでぜひにに参加しました。2000人の声のポリフォニーにこれが第九なんだ、と感動しました。1万人になったらすごいだろうなと今からワクワクします」と本番に向けた期待も広がっていました。

12月4日、大学講堂が 歓喜に包まれる

本番当日。本学大学講堂に設置されたLEDビジョンに映される大阪城ホール。緊張感も高まります。被災地への鎮魂、そしてエールを送る想いを伝える『G線上のアリア』の演奏に乗せ、詩人・和合亮さんによる「高台へ」が朗読され、黙祷がささげられました。純白ドレス姿の平原綾香さんは第九の第3楽章に自らが歌詞を付けたという「LOVE STORY」を熱唱。宮城会場では第一部公演として、Le Veets (ルヴェルヴェツ)、Rake (レイク) のライブも行われました。

第二部ではいよいよ「第九」。指揮台には被災地への思いを託した千羽鶴が設置されました。そこに立つ佐渡さんの指揮のもと、響き渡る歓喜の歌声。本学の学生たちも想いを込めて熱唱しました。「すべての人は兄弟になる」というメッセージに会場が一体になり、歓喜の拍手に包まれました。

最後に、観覧の方も参加して「故郷（ふるさと）」、そして「蛍の光」。緑のステイックライトを全員が振りながら大合唱となりました。



当日の様子はTBS系列8局ネットで『1万人の第九 yell for TOHOKU』で放送されました。さらにフランス・ドイツのテレビ局である『Arte (アルテ)』でも放送され、熱い想いと歌声が世界に発信されました。

万感の思い。
「また来年も参加したい！」

歌いきった喜びに火照った顔で控え室に戻る東北特別合唱団の皆さん。充実感と自信に満ちた笑顔で「大阪会場とひとつになれました。お世話になった方々への感謝の念が溢れてきました」と万感の想いを語っていました。

「和合さんの南三陸の話で気持ちが高まりました。皆さんと共に精一杯歌うことができました」（人間文化学科・菅野智子さん）、「すごい盛り上がり涙がとまりませんでした。来年は大阪会場に行つて1万人の第九を体験してみたい」（食品栄養学科・菊池楓さん）、「途中泣きそうになりましたが、東北の力を大阪に送り届けられたと思います。福島・岩手など違う県の方や幅広い年代での方々と一緒に合唱できたのは本当にいい経験でした」（音楽科・清水晶子さん）と熱いコメント。みんな「また来年も」という想いを強くした一日でした。



菊池楓さん、阿部真由子さん、北川時空さん、相坂南さん 菅野智子さん 清水晶子さん

イベントやブライダルを通して
たくさんの方の笑顔と笑い声を
作っていききたい。

[取材]

広報室インターンスタッフ

高橋真衣子 (心理行動科学科4年)

安住絵里 (日本文学科4年)

——会社名のラフは笑う(Laugh)という意味なんですか？

そうですね。笑い声のある場所には、笑顔がたくさん集まることを知りましたから。イベントやブライダルを通して、たくさん笑顔と笑い声を作っていたいですね。

大学を卒業してイベント会社に勤めたのですが、「やりたいことを思いっきりやろう」と会社を立ち上げました。震災があつてかえって踏ん切りがついた感じですね。いろいろな人脈のおかげで、今は休みもない感じで仕事させていただいています。

——現在ほどのようなお仕事をされているのですか？

おもに今やっていることは、ミス・ユニバース・ジャパン東北大会のエリアディレクター、イベント企画制作、そしてブライダルプロデュースの仕事をしております。学生時代にイベント会社でアルバイトをしていたのですが、すごく興味を持ってはまってしまい、ついに仕事として選んでしまいました。専攻していた音楽とは分野が違いますが、



笑顔で未来を見つめれば新しい明日が見えてくる。



大きなイベントを成功させた時の喜びはひとしお



かけがえのない結婚式を心をこめて

イベントでかけるBGMのセレクトなど、いろいろ活かされているのではないのでしょうか。

現在、地元会社三社でLLP(有限責任事業組合)を立ち上げ、地元仙台の活性化ということで、仙台市中部9商店街の情報ステーション仙台なびづくの運営もしています。その他LLPでの仕事としては市民広場で行われる仙台七夕や、仙台お笑いコンテストなどを運営企画しています。

——イベントのお仕事というのは大変ですか？

10年ぐらいい前、大きな博覧会の運営を任せられました。研修や衣装やパビリオンの設置など9ヶ月間住み込みで二通りやらせてもらい、大きな自信を得ることができましたね。

1時間のイベントに3年前から準備するなんてこともありますが、お客様から「良かったよ」と喜んでいただけただけの時、それまでの苦労が吹き飛びますね。イベントの仕事は、歩踏み込めば責任も信頼も得ることができ、やりがいのある仕事だと思います。

——ブライダルの仕事に興味を持っているのですが、なにかアドバイスをお願いします。

私の会社では式を一日一組しかやりません。中途半端な時間に行くことや式場で花嫁さん同士がすれ違うことがいやだからです。私はお客様のための結婚式を仕事と思わないので、休みの日も含め24時間対応をしています。まあ、小さい会社だからできることですが…。

お客様のことを深く考えれば、仕事には「こままでいい」というのはないと思います。とにかく「積極性」をいろいろなことに取り組むことが第一ですね。

——最後にこれからの抱負などをお聞かせください。

いまミス・ユニバース・ジャパン東北大会の地区大会を運営させていただいているのですが、いつか世界大会を仙台に呼べたらと、大きな夢を持っています。きっと地元の経済効果も期待できると思いますし、とにかく笑顔で夢を語れるような大きなイベントをやりたいですね。

Profile

鈴木未来さん

1997年3月 学芸学部音楽科ピアノ専攻卒。1997年4月株式会社東和エスピー企画入社。2011年4月退社。2011年8月 株式会社 ラフアソシエイツ設立。
(社)日本イベント産業振興協会認定 イベント業務管理者

株式会社 ラフ・アソシエイツ

仙台市若林区卸町東2丁目3-30
TEL 022-236-8622
<http://www.laugh-associates.com>

サークル紹介 01

体操部 (HipHop ダンス)

- 部員数：約 40 名
- 活動日：月・木曜日
- 活動場所：体育館

誰でも楽しく身体を動かせるのがいい!

うちの部は未経験でも大丈夫。自分の好きな音楽に合わせて身体を動かします。ダンスにはヒップホップにガールズにジャズなどいろいろなスタイルがあります。先輩から引き継いだ振りなんかもしっかり伝授いたしますよ。活動は普段の練習の他に、大学祭や卒業パーティ、新入生歓迎会などでの発表、さらに市内のクラブなどに出演することもあります。

チームを組んで、衣装はそれぞれのチームでセレクト。いろんな人の PV を参考にして、振りも自分たちで考えます。見に来てくれた方にはなかなか評判ですよ。

健康にもいいし、ダイエット効果もあるかも!?

夢中になれることがあるので大学生活も楽しいです。街中でもリズムをとってしまいますね。いつでも踊れるようにということで、ファッションも変わってきています。

ダンスは元気になれるし、健康にもいいですね。大学祭の時は本番に向けた練習のおかげでとにかくスリムになりました!気づくと腹筋が割れていたりして…。

未経験者でも大丈夫なので気軽に入って欲しいですね。面白そうかどうかなど思っている人も気軽にどうぞ。



川の良さに自信あり!



楽しく自己表現



部長
阿部成美さん
(英文学科3年)

サークル紹介 02

漫画研究部

- 部員数：43 名
- 活動日：不定期
- 活動場所：部室

オリジナルの漫画やイラストの作品づくり。

活動の中心となるのが10月の大学祭に向けて、部誌の発行、展示するイラストボードの制作を行うことです。漫画ブームのせいなのか、昨年も展示会は大盛況でした。ポストカードなど年配の方々も買ってくださりうれしかったです。

漫画を掲載する部誌は、部員自らで編集し、印刷所さんをお願いする本格的なものです。ひとり原稿用紙20ページぐらいの割り当てで、ストーリーを設定し、ネーム(下書き)を提出してもらいます。経験者の方でコマ割のアドバイスなどもして部全体のクオリティアップを目指しています。

好きだから描きたいというのが大切!

漫画とイラストという2つをこなすことになると大変ですが、着色の技術も違うのでトータルに絵を描く技術が付くと思います。月1回ならかなりの作品を提出するという感じで、授業の空き時間などを見つけて忙しく制作しています。描く対象が決まらないと手がすすまないの、何かをとことん好きになることが大切だと思います。

制作する環境が整っているので漫画が好きで自分でも描いてみたいという人など、ぜひ参加ください。



展示会も大盛況!



描く楽しさを伝える!

部長
赤井華香さん
(生活文化デザイン学科4年)



心に刻まれた 大学クリスマス礼拝

大学クリスマス礼拝が12月15日、礼拝堂で行われ、当日は学生、教職員、合わせて約500名の来場がありました。前奏のちキヤンドルを灯しながら賛美をし、奨励に耳を傾けました。キヤンドル消火後、「クリスマスのごとく」と題し、金永秀（沖縄キリスト教学院大学教授）先生による説教がありました。東日本大震災を経験したうえで、キリストの平安の中で生きる選択が語られました。心に残るメッセージの後、参列者同による「きよしこのよ」が会場内に響き渡りました。

大正製薬「リポビタンD」 宮城限定CMを制作

「リポビタンDを今の若い世代にもっと飲んでほしい」という大正製薬さんの強い要望から、若年層に訴えかける宮城限定のCMを制作することになり、本学広報室インターネットスタッフが全面



音楽科文化系コロキアム

音楽科文化系の学習成果を発表する「文化系コロキアム」が、2月8日、仙台市青年文化センター交流ホールで開催されました。二回目にあたる今年度は一部構成をとり、第一部では3年生共同制作作品の演奏、第二部では4年生5名による卒業論文、卒業制作の成果発表が行われました。音楽科在學生、卒業生だけでなく、外部からのお客様も多くいらつしやり、工夫をこらしたプレゼン、作品発表から、文化系の学びの多様性を感じるこの出来る催しになりました。閉会後は、文化系OGとの懇親会を



開き、在學生は社会人としてたくましく生きる先輩の姿から、またOGは日々成長中である在學生の生き生きとした姿から、それぞれに刺激と活力を得ました。

的にお手伝いをさせて頂くことに。ストーリー作りからキャプテイング、撮影まで、学生自身が作り上げたCMは、3月中旬頃より、ミヤギテレビで放送予定です。大正製薬さんからは「リポビタンDをこれまでにない新しい視点でPRして頂きありがとうございます」とおほめの言葉を頂いています。

編集後記

震災から1年。いろいろありました。復興支援の関係で宮城学院にも劇団四季が来たり、佐渡裕さん（1万人の第九）が来たり、いろいろな方々が宮城学院を訪れました。そうして行く人、来る人、往来繁き世の中で、大学というところもまた学生たちにとっては一つの通過点にすぎません。今号ではこの春から就職に就く学生たちの座談会を特集しました。世の中少子化です。狭き門です。それでも何年もかかって目指す職業にたどりついたという先輩たちもいます。大事なことは「自分が本当にやりたいことを諦めない」こと。本誌「パルティール」の意味するところは「旅立ち」。さあ、それぞれの春を目指して新たな出発です。

(M・F)

f 公式 facebook ページ誕生! <http://www.facebook.com/mgu.ac.jp>

タイムリーな情報発信とグローバルな交流の場を目指し、宮城学院女子大学公式 facebook ページが誕生致しました。ぜひ「いいね!」をクリックしていただき、国内外を問わず交流の場としてご活用下さい。また、災害時には緊急連絡ページとして大学から情報を発信致します。





Letter Essay

熊本から同志社へ ―宮城学院の精神を訪ねて(2)―

宮城学院の精神を訪ねる旅を続けよう。

民話劇『夕鶴』の作者・木下順二は、また、『オットーと呼ばれる日本人』、『冬の時代』、『神と人との間』など現代劇の作者でもある。それぞれ、ゾルゲ事件、大逆事件、極東国際軍事裁判などを背景にしている。その木下が1939年、軍隊に入営する直前に書き上げた処女作が、明治維新期の熊本を舞台に描いた『風浪』である。

環境問題やエネルギー問題に直面する現代社会が社会の在り方を問われているように、社会の変動期には、社会の進路を巡ってさまざまな思想が提唱される。明治初期の熊本でも、横井小楠を師と仰ぐ実学党、朱子学に依る学校党、神道系の敬神党などが並立し、それぞれの思想によって新しい日本社会を創造しようとしていた。その中で、青年たちは自分の進路を模索する。そこに、熊本洋学校のお雇い外国人・ジェインズを通して、キリスト教も入ってきた。

平信徒のジェインズは、英語、数学を初めとする諸科目を教えたが、伝道はしなかった。ただ、聖書を読むことと祈ることを教えた。しかし、休日なしに献身的に生徒に尽くす彼の熱意は、生徒たちの心を動かし、彼らはキリスト教の精神をもって日本社会を築こうという「泰教趣意書」を自主的に作成して35名が署名し、1876年1月、熊本市街を一望する花岡山で読み上げた。横浜バンド（宮城学院の源流）、札幌バンドと並ぶ「三大バンド」の一つ・熊本バンドの誕生である。

熊本洋学校閉校後、彼らは京都の同志社に進んで会衆派の柱となり、日本におけるプロテスタントの主要な流れの一つを形成した。

宮城学院女子大学 学長 海野 道郎



私たちの学校 (MIYAGI GIRLS' SCHOOL) の礎を据えてくださった「ジャパン・ミッション」のこの地での動きとその歴史。1904 (明治 37) 年、のちに宮城女学校の第 4 代校長を務めることになるヘンリー・K・ミラー宣教師の編纂によって、今、国立国会図書館のデジタル・アーカイヴで閲覧ができます。

<http://www.archive.org/stream/historyofjapanmi00mill#page/56/mode/2up>

(写真・文 宮城学院資料室)